

平成30年 **2月の思いやり** 通信



エネルギーを自給する省エネ住宅で家計も優しく

省エネ性能を星の数で示すBELS

・BELS：国土交通省が定めた「建築物の省エネ性能表示のガイドライン」に基づく、第三者認証制度の一つ。

・電気やガスの消費性能を、1次エネルギー（石油など）の消費性能に換算し、5段階で評価。星が多いほど性能が高くなります。

ZEHに必要な3つのポイント

①断熱：家の高断熱化で使用する冷暖房エネルギーを減らすこと。

②省エネ：省エネ家電などを導入してエネルギーを上手に節約して使うこと。

③創エネ：太陽光発電システムなどでエネルギーを創り出すこと。

・1年間の消費エネルギー量と正味でゼロ、もしくは上回る住宅のことをZEHと呼びます。

(2018年1月1日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



風力発電 伸び悩み 昨年、導入量2年連続減

太陽光偏重 整備進まず

・風力による発電が伸び悩んでいます。2017年の導入量（発電所新設分）は169,000kwと、2016年末に比べて12%減少しました。

・2017年末の累積導入量は2016年末より5%増えたものの、政府目標の約3割。

・基幹電源となるためには、規制緩和や家庭などに届ける「送電線」など、風力発電事業で解決すべき課題は多くあります。

・世界を見回すと、再生可能エネルギーの主軸は風力になっています。

(2018年1月18日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





エコライフ - 同じ気温でも体感温度はなぜ違う？

- ・イギリスでは、住宅法の中で性能の低い住宅には国が強制改修命令を出すと定めており、その評価の一つに室温環境があります。
- ・日本には冬季の室温に関する規制がありません。
- ・夏の19度は涼しく感じますが、冬の19度は逆に温かく感じるはずですが。この違いが体感温度と呼ばれるものの正体です。
- ・部屋の体感温度は、おおまかに2つの温度が要因になります。
(部屋のまわりの空気の温度+壁の温度) ÷ 2 ≒ 部屋の体感温度
冬に室温19度であっても、壁の温度が10度の場合、体感温度は14～15度です。
- ・暖房をつけて部屋を暖めても、断熱ができていない壁の温度は低いままです。
- ・高断熱高气密の住まいをつくれれば、壁と室温の差がなくなり、そのままの温度が体感温度になります。

☆イギリス保健省による冬季の室内温度指針

21℃	推奨温度
18℃	許容温度
16℃	呼吸器系疾患にリスクが現れる温度
9～12℃	血圧上昇、心臓血管疾患のリスクが生じる温度
5℃	低体温症を起こすリスクが高まる温度

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)

